

資 料 編

目 次

		ページ
資料	1 業務実績年度比較表	78
資料	2 業務関係年度比較表	80
資料	3 損益計算書年度比較表	82
資料	4 資本的収支年度比較表	84
資料	5 貸借対照表年度比較表	86
資料	6 経営分析比率年度比較表	92
参考	1 広島市下水道事業中期経営プラン (平成 28 年度～平成 31 年度) (抜粋)	96
参考	2 広島市下水道事業中期経営プラン (令和 2 年度～令和 5 年度) (抜粋)	100

区 分	令和元年度	平成30年度	平成29年度
行政区域内人口 (A)	119万6,725人 (119万4,330人)	119万6,950人 (119万4,524人)	119万5,936人 (119万3,556人)
処理区域内人口 (B)	115万8,474人 (115万6,079人)	115万6,925人 (115万4,499人)	115万4,240人 (115万1,860人)
人口普及率 (B/A × 100)	96.8% (96.8%)	96.7% (96.6%)	96.5% (96.5%)
処理区域内世帯数 (C)	55万2,726世帯	54万5,344世帯	53万8,578世帯
処理区域内 水洗化世帯数 (D)	54万1,159世帯	53万2,446世帯	52万4,470世帯
水洗化率 (D/C × 100)	97.9%	97.6%	97.4%
処理区域面積	1万4,527ha (1万4,490ha)	1万4,480ha (1万4,443ha)	1万4,458ha (1万4,421ha)
管 き よ 総 延 長	603万5,434m	601万1,567m	599万8,853m
1 日 処 理 能 力	65万1,732m ³	66万4,932m ³	66万4,932m ³
年 間 処 理 水 量	1億5,514万8,234m ³	1億5,930万1,962m ³	1億5,900万3,736m ³
1 日 平 均 処 理 水 量	42万3,902m ³	43万6,443m ³	43万5,627m ³
有 収 水 量	1億1,928万2,362m ³	1億1,955万2,277m ³	1億1,977万8,824m ³
一 般 家 庭 汚 水 (E)	9,066万8,135m ³	9,041万9,837m ³	9,045万 606m ³
営 業 汚 水	2,716万1,701m ³	2,771万4,649m ³	2,786万4,572m ³
公 衆 浴 場 汚 水	61万5,016m ³	56万3,846m ³	60万9,600m ³
プ ー ル 及 び 土 木 工 事 等 に よ る 汚 水	83万7,510m ³	85万3,945m ³	85万4,046m ³
一 般 家 庭 1 世 帯 当 たり 汚 水 量 (E/D)	168m ³	170m ³	172m ³

(注) 1 数値は、府中町大須地区分を加えたものである。

2 農業集落排水の処理区域内人口は整備計画区域内における整備済みの人口をもって、市営浄化槽の

3 農業集落排水の処理区域内世帯数は整備計画区域内における整備済みの世帯数をもって、市営浄化

4 処理区域面積は、公共下水道及び特定環境保全公共下水道に係る数値である。

なお、農業集落排水及び市営浄化槽は、処理区域の概念がないため、算出していない。

5 行政区域内人口から1日処理能力までの項目は、年度末の数値である。

6 () 内は、本市に係る数値である。

度 比 較 表

平成28年度	平成27年度	指 数				
		令和元年度	平成30年度	平成29年度	平成28年度	平成27年度
119万5,450人 (119万3,051人)	119万3,307人 (119万 877人)	100.3 (100.3)	100.3 (100.3)	100.2 (100.2)	100.2 (100.2)	100 (100)
114万7,043人 (114万4,644人)	113万8,332人 (113万5,902人)	101.8 (101.8)	101.6 (101.6)	101.4 (101.4)	100.8 (100.8)	100 (100)
96.0% (95.9%)	95.4% (95.4%)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)
52万9,856世帯	52万2,036世帯	105.9	104.5	103.2	101.5	100
51万4,745世帯	50万6,147世帯	106.9	105.2	103.6	101.7	100
97.1%	97.0%	—	—	—	—	—
1万4,282ha (1万4,245ha)	1万4,167ha (1万4,130ha)	102.5 (102.5)	102.2 (102.2)	102.1 (102.1)	100.8 (100.8)	100 (100)
597万7,950m	594万9,809m	101.4	101.0	100.8	100.5	100
66万4,932m ³	66万1,210m ³	98.6	100.6	100.6	100.6	100
1億6,659万1,734m ³	1億6,049万2,260m ³	96.7	99.3	99.1	103.8	100
45万6,416m ³	43万8,503m ³	96.7	99.5	99.3	104.1	100
1億1,927万3,432m ³	1億1,860万9,407m ³	100.6	100.8	101.0	100.6	100
8,979万1,038m ³	8,925万4,825m ³	101.6	101.3	101.3	100.6	100
2,799万6,048m ³	2,795万8,958m ³	97.1	99.1	99.7	100.1	100
57万8,549m ³	55万4,568m ³	110.9	101.7	109.9	104.3	100
90万7,797m ³	84万1,056m ³	99.6	101.5	101.5	107.9	100
174m ³	176m ³	95.5	96.6	97.7	98.9	100

処理区域内人口は処理を行っている人口をもってそれぞれ算出している。
槽の処理区域内世帯数は処理を行っている世帯数をもってそれぞれ算出している。

区 分	令和元年度	平成30年度	平成29年度
施 設 利 用 率	65.0%	65.6%	65.5%
営 業 費 用 に 対 す る 人 件 費 の 割 合	7.0%	6.9%	7.1%
職 員 1 人 当 た り の 有 収 水 量	41万1,318m ³	39万9,840m ³	40万1,942m ³
使 用 料 等 単 価	212.35円/m ³	213.65円/m ³	211.94円/m ³
処 理 原 価	202.01円/m ³	203.89円/m ³	198.80円/m ³
維 持 管 理 費 分	54.55円/m ³	55.06円/m ³	51.73円/m ³
資 本 費 分	147.46円/m ³	148.83円/m ³	147.07円/m ³

- (注) 1 人件費は、損益勘定所属職員に係る給料、手当等（児童手当を除く。）、法定福利費（賃金
2 職員数は、年度末の損益勘定所属職員に嘱託職員を加えた数値である。
3 下水道使用料等には、汚水処理費用に充当される負担金等を含む。
4 汚水処理に係る経費は、費用のうち汚水処理に係る経費として算定した額である。
5 使用料等単価及び処理原価については、小数第3位を四捨五入している。

度 比 較 表

平成28年度	平成27年度	公 式	算 式 (令和元年度)
68.6%	66.3%	$\frac{1 \text{ 日 平 均 処 理 水 量 }}{1 \text{ 日 処 理 能 力}} \times 100$	$\frac{42 \text{ 万 } 3,902 \text{ m}^3}{65 \text{ 万 } 1,732 \text{ m}^3} \times 100$
7.3%	7.4%	$\frac{\text{人 件 費 用}}{\text{営 業 費 用}} \times 100$	$\frac{25 \text{ 億 } 861 \text{ 万 } 324 \text{ 円}}{358 \text{ 億 } 8,245 \text{ 万 } 9,133 \text{ 円}} \times 100$
39万7,578m ³	39万 163m ³	$\frac{\text{有 収 水 量}}{\text{職 員 数}}$	$\frac{1 \text{ 億 } 1,928 \text{ 万 } 2,362 \text{ m}^3}{290 \text{ 人}}$
210.54円/m ³	212.05円/m ³	$\frac{\text{下 水 道 使 用 料 等}}{\text{有 収 水 量}}$	$\frac{253 \text{ 億 } 2,925 \text{ 万 } 8,826 \text{ 円}}{1 \text{ 億 } 1,928 \text{ 万 } 2,362 \text{ m}^3}$
202.64円/m ³	208.04円/m ³	$\frac{\text{汚 水 処 理 に 係 る 経 費}}{\text{有 収 水 量}}$	$\frac{240 \text{ 億 } 9,677 \text{ 万 } 1,750 \text{ 円}}{1 \text{ 億 } 1,928 \text{ 万 } 2,362 \text{ m}^3}$
52.76円/m ³	53.00円/m ³	$\frac{\text{処 理 場 費 等 の 維 持 管 理 費}}{\text{有 収 水 量}}$	$\frac{65 \text{ 億 } 738 \text{ 万 } 9,195 \text{ 円}}{1 \text{ 億 } 1,928 \text{ 万 } 2,362 \text{ m}^3}$
149.87円/m ³	155.04円/m ³	$\frac{\text{減 価 償 却 費 等 の 資 本 費}}{\text{有 収 水 量}}$	$\frac{175 \text{ 億 } 8,938 \text{ 万 } 2,555 \text{ 円}}{1 \text{ 億 } 1,928 \text{ 万 } 2,362 \text{ m}^3}$

共済費を除く。），災害補償費，賞与引当金繰入額及び嘱託職員に係る報酬である。

損 益 計 算 書

科 目		令和元年度			平成30年度			平成29年度		
		億 万 円			億 万 円			億 万 円		
収 益	1 営 業 収 益	340	6972	3027	346	9399	1920	352	7026	7103
	(1) 下 水 道 使 用 料	198	1132	1049	200	3403	9463	201	0658	3697
	(2) 一 般 会 計 負 担 金	140	7008	5361	144	7636	9831	151	6246	4028
	(3) そ の 他 営 業 収 益	1	8831	6617	1	8358	2626		121	9378
	2 営 業 外 収 益	97	9063	6236	99	5030	1658	97	6989	8898
	(1) 受 取 利 息		44	2274		33	3266		34	0325
	(2) 国 庫 補 助 金		362	7118		8256	3684			—
	(3) 負 担 金		9301	3540	1	1006	0066	1	2361	2756
	(4) 一 般 会 計 補 助 金	1	4145	0266	2	1186	7318	2	7025	1591
	(5) 長 期 前 受 金 戻 入	94	9609	8511	94	7594	2562	93	1656	3756
	(6) 雑 収 益		5600	4527		6953	4762		5913	0470
	3 特 別 利 益	1	2621	7870		2580	2725	2	5523	8972
	(1) 過 年 度 損 益 修 正 益		707	5341		1414	1107		576	3586
	(2) 長 期 前 受 金 戻 入 益	1	1702	3043			—	1	0000	8101
	(3) そ の 他 特 別 利 益		211	9486		1166	1618	1	4946	7285
	合 計	439	8657	7133	446	7009	6303	452	9540	4973
費 用	1 営 業 費 用	358	8245	9133	360	2025	3371	352	9291	7126
	(1) 管 き よ 費	5	9548	0548	6	5557	7387	4	8644	4390
	(2) 水 質 指 導 費		5683	7484		6155	8513		6016	7137
	(3) ポ ン プ 場 費	19	6900	0007	20	0094	5418	19	6603	0336
	(4) 処 理 場 費	48	3097	4181	49	0229	2623	48	4505	5377
	(5) 普 及 促 進 費		7584	8724		8184	5033		7959	6658
	(6) 水 洗 化 貸 付 事 業 費		1013	7761		1187	0165		1252	4873
	(7) 業 務 費	9	8287	1141	9	8689	3129	10	1890	2844
	(8) 総 係 費	5	1751	7957	5	2849	0066	4	7878	3484
	(9) 特 環 公 共 下 水 道 費		7505	6789		7730	0107		7457	4890
	(10) 農 業 集 落 排 水 費	2	0512	0091	2	1541	2331	1	7927	4916
	(11) 浄 化 槽 費		5100	3056		4833	1005		4287	1804
	(12) 減 価 償 却 費	261	7721	1378	258	5278	4884	256	2672	3024
	(13) 資 産 減 耗 費	3	3540	0016	5	9695	2710	4	2196	7393
	2 営 業 外 費 用	65	5441	8757	72	6378	7394	80	0600	1440
	(1) 支 払 利 息 及 び 企 業 債 取 扱 諸 費	64	1413	7024	71	2480	5216	78	6345	8461
	(2) 雑 支 出	1	4028	1733	1	3898	2178	1	4254	2979
	3 特 別 損 失	1	7576	1901		715	3421	1	5311	3524
	(1) 過 年 度 損 益 修 正 損		696	4151		458	5800		1454	1429
	(2) 減 損 損 失	1	6567	1127			—	1	3827	3467
	(3) そ の 他 特 別 損 失		312	6623		256	7621		29	8628
	合 計	426	1263	9791	432	9119	4186	434	5203	2090
当年度純利益（△純損失）		13	7393	7342	13	7890	2117	18	4337	2883

年 度 比 較 表

平成28年度			平成27年度			指 数				
						令和元年度	平成30年度	平成29年度	平成28年度	平成27年度
億 万 円			億 万 円							
354	3377	7459	358	6666	7225	95.0	96.7	98.3	98.8	100
200	8871	1825	200	0180	9877	99.0	100.2	100.5	100.4	100
153	4366	9986	158	6320	0836	88.7	91.3	95.6	96.7	100
	139	5648		165	6512	11,368.3	11,082.5	73.6	84.3	100
98	0930	0929	99	0191	0290	98.9	100.5	98.7	99.1	100
	48	8158		183	9896	24.0	18.1	18.5	26.5	100
		—		2623	3879	13.8	314.7	—	—	100
1	5417	5072	1	5222	8084	61.1	72.3	81.2	101.3	100
4	1650	7329	4	1742	7083	33.9	50.8	64.7	99.8	100
92	0793	0134	92	8848	1507	102.2	102.0	100.3	99.1	100
	3020	0236		1569	9841	356.7	442.9	376.6	192.4	100
1	2533	8652	2	1019	3215	60.0	12.3	121.4	59.6	100
	430	7393		4138	8769	17.1	34.2	13.9	10.4	100
1	0759	2046	1	6036	1260	73.0	—	62.4	67.1	100
	1343	9213		844	3186	25.1	138.1	1,770.3	159.2	100
453	6841	7040	459	7877	0730	95.7	97.2	98.5	98.7	100
352	1954	1742	353	2837	6788	101.6	102.0	99.9	99.7	100
4	8291	5246	7	6980	7438	77.4	85.2	63.2	62.7	100
	6451	0427		5870	2773	96.8	104.9	102.5	109.9	100
20	4449	1264	20	4013	9575	96.5	98.1	96.4	100.2	100
49	8533	2486	47	2677	2309	102.2	103.7	102.5	105.5	100
	9355	0612		8581	6962	88.4	95.4	92.8	109.0	100
	1495	4746		2115	2416	47.9	56.1	59.2	70.7	100
10	0570	3849	10	7702	4327	91.3	91.6	94.6	93.4	100
5	1889	0112	5	6230	8646	92.0	94.0	85.1	92.3	100
	6540	0732		5532	9325	135.7	139.7	134.8	118.2	100
1	7768	3377	1	6994	6060	120.7	126.8	105.5	104.6	100
	3876	1842		3303	0257	154.4	146.3	129.8	117.4	100
253	2591	6654	251	1197	2359	104.2	103.0	102.0	100.9	100
4	0143	0395	6	1637	4341	54.4	96.8	68.5	65.1	100
86	5252	9097	93	3963	4269	70.2	77.8	85.7	92.6	100
85	1112	1507	91	9516	1451	69.8	77.5	85.5	92.6	100
1	4140	7590	1	4447	2818	97.1	96.2	98.7	97.9	100
1	3754	7194	4	1805	0711	42.0	1.7	36.6	32.9	100
	1083	7020		5163	1338	13.5	8.9	28.2	21.0	100
1	2671	0174	3	6629	5577	45.2	—	37.7	34.6	100
		—		12	3796	2,525.6	2,074.1	241.2	—	100
440	0961	8033	450	8606	1768	94.5	96.0	96.4	97.6	100
13	5879	9007	8	9270	8962	153.9	154.5	206.5	152.2	100

資 本 的 収 支

科 目		令和元年度			平成30年度			平成29年度		
		億 万 円			億 万 円			億 万 円		
収 入	資 本 的 収 入									
	(1) 企 業 債	279	5380	0000	254	4420	0000	260	3030	0000
	(2) 一 般 会 計 出 資 金	47	9244	1553	62	1987	9160	68	3414	1614
	(3) 国 庫 補 助 金	50	5774	6468	38	2393	5500	41	2220	5000
	(4) 工 事 受 託 金		5544	1445		5579	1106		6180	4087
	(5) 負 担 金	4	7825	4307	6	2950	8446	4	9176	9444
	(6) 水 洗 化 貸 付 事 業 収 入		2694	3000		3589	1000		4624	7000
	(7) 固 定 資 産 売 却 代 金		1904	1852		475	5791		448	2867
合 計 (A)		383	8366	8625	362	1396	1003	375	9095	0012
支 出	資 本 的 支 出									
	(1) 建 設 改 良 費	153	7815	9307	131	5434	2183	131	6750	0828
	(2) 償 還 金	427	2482	3220	416	5536	7183	425	6366	2159
	(3) 水 洗 化 貸 付 事 業 費		1764	4000		2032	6000		2290	3000
合 計 (B)		581	2062	6527	548	3003	5366	557	5406	5987
収 支 差 引 額 (C=A-B)		△ 197	3695	7902	△ 186	1607	4363	△ 181	6311	5975
そ の 他 不 足 額	翌年度繰越財源充当額 (D)	5	2522	6520	6	5065	4231	3	4416	9453
収 支 不 足 額 (C-D)		△ 202	6218	4422	△ 192	6672	8594	△ 185	0728	5428
補 填 財 源 等	(1) 当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額	7	0999	6341	5	9084	5102	5	7420	8702
	(2) 当年度分損益勘定留保資金	170	5826	0967	169	7291	5032	167	6024	7027
	(3) 繰越工事資金	6	5055	4231	3	4416	9453	2	8012	0737
	(4) 減債積立金	18	4337	2883	13	5879	9007	8	9270	8962
	合 計	202	6218	4422	192	6672	8594	185	0728	5428

(注) 金額は、消費税及び地方消費税相当分を含んだものである。

年 度 比 較 表

平成28年度			平成27年度			指 数				
						令和元年度	平成30年度	平成29年度	平成28年度	平成27年度
億	万	円	億	万	円					
302	4360	0000	286	7650	0000	97.5	88.7	90.8	105.5	100
68	6427	7303	68	8427	3453	69.6	90.3	99.3	99.7	100
57	4471	3000	49	1670	0000	102.9	77.8	83.8	116.8	100
	8675	0363		7257	0554	76.4	76.9	85.2	119.5	100
4	6440	5532	4	6761	5484	102.3	134.6	105.2	99.3	100
	5758	7000		6304	8000	42.7	56.9	73.4	91.3	100
	509	2252		84	4981	2,253.5	562.8	530.5	602.6	100
434	6642	5450	410	8155	2472	93.4	88.2	91.5	105.8	100
173	6648	4045	149	0734	7235	103.2	88.2	88.3	116.5	100
435	5228	3786	443	4131	3251	96.4	93.9	96.0	98.2	100
	5028	6000		5767	9000	30.6	35.2	39.7	87.2	100
609	6905	3831	593	0633	9486	98.0	92.5	94.0	102.8	100
△ 175	0262	8381	△ 182	2478	7014	108.3	102.1	99.7	96.0	100
2	8012	0737	1	3053	3000	402.4	498.5	263.7	214.6	100
△ 177	8274	9118	△ 183	5532	0014	110.4	105.0	100.8	96.9	100
7	3231	6479	6	1916	8660	114.7	95.4	92.7	118.3	100
165	2473	5043	166	5335	5866	102.4	101.9	100.6	99.2	100
1	3053	3000		9390	0000	692.8	366.5	298.3	139.0	100
3	9516	4596	9	8889	5488	186.4	137.4	90.3	40.0	100
177	8274	9118	183	5532	0014	110.4	105.0	100.8	96.9	100

貸 借 対 照 表

科 目		令和元年度			平成30年度			平成26年度						
		(A)			(B)									
資 産			兆	億	万	円	兆	億	万	円	兆	億	万	円
	1 固 定 資 産		7948	9015	4464		8065	5958	5609		8525	3090	4774	
	(1) 有 形 固 定 資 産		7889	3704	4505		8001	9652	0401		8447	3581	0365	
	ア 土 地		522	4915	3637		522	8538	1034		511	0899	3679	
	イ 建 物		396	9436	9732		394	8592	6952		365	7103	2198	
	減 価 償 却 累 計 額		△	256	3078	3481	△	248	2068	3881	△	208	4343	6562
	年 度 末 償 却 未 済 高			140	6358	6251		146	6524	3071		157	2759	5636
	ウ 構 築 物		1	1080	5809	5008	1	0982	7923	5624	1	0515	9680	7861
	減 価 償 却 累 計 額		△	4519	0680	1176	△	4320	2572	2706	△	3555	8706	7972
	年 度 末 償 却 未 済 高			6561	5129	3832		6662	5351	2918		6960	0973	9889
	エ 機 械 及 び 装 置			1582	5329	3660		1575	2185	9709		1455	7994	0642
	減 価 償 却 累 計 額		△	998	0856	5802	△	967	9052	6377	△	855	0711	8872
	年 度 末 償 却 未 済 高			584	4472	7858		607	3133	3332		600	7282	1770
	オ 車 両 運 搬 具				7875	0851			7695	2351			7584	4582
	減 価 償 却 累 計 額		△		5419	5183	△		5121	1600	△		6219	1944
	年 度 末 償 却 未 済 高				2455	5668			2574	0751			1365	2638
	カ 工 具 ・ 器 具 及 び 備 品			1	4336	4228		1	5358	4928		2	1181	1465
	減 価 償 却 累 計 額		△	1	0555	6640	△	1	1422	4544	△	1	6917	8119
	年 度 末 償 却 未 済 高				3780	7588			3936	0384			4263	3346
	キ 建 設 仮 勘 定			79	6591	9671		61	9594	8911		217	6037	3407
(2) 無 形 固 定 資 産			57	8944	4959		61	8315	8208		75	4421	3386	
ア 地 上 権					13	8770			62	3706			272	1174
イ 施 設 利 用 権			57	7152	5072		61	5277	5014		74	6614	2209	
ウ 電 話 加 入 権				1651	0003			1651	0003			1651	0003	
エ ソ フ ト ウ ェ ア					1			1176	8000			5884	0000	
オ 著 作 権				127	1113			148	1485				—	
(3) 投 資 そ の 他 の 資 産			1	6366	5000		1	7990	7000		2	5088	1023	
ア 水 洗 便 所 改 造				2285	4000			3465	1000			7274	9000	
資 金 貸 付 金					—				—	△		16	3383	
貸 倒 引 当 金					—				—				—	
年 度 末 残 高				2285	4000			3465	1000			7258	5617	
イ し 尿 浄 化 槽 廃 止				863	6000			1308	1000			4631	6000	
資 金 貸 付 金					—				—	△		19	5594	
貸 倒 引 当 金					—				—				—	
年 度 末 残 高				863	6000			1308	1000			4612	0406	
ウ 出 資 金			1	3217	5000		1	3217	5000		1	3217	5000	
エ 破 産 更 生 債 権 等				123	2242			174	2242				—	
貸 倒 引 当 金		△		123	2242	△		174	2242				—	
年 度 末 残 高					0				0				—	

年 度 比 較 表

平成21年度			(A) - (B)		指 数			
					令和元年度	平成30年度	平成26年度	平成21年度
兆	億	万 円	億	万 円				
1 0281	4423	6876	△ 116	6943 1145	77.3	78.4	82.9	100
1 0171	6494	6166	△ 112	5947 5896	77.6	78.7	83.0	100
	513	5535 2511	△	3622 7397	101.7	101.8	99.5	100
	338	9649 0279		2 0844 2780	117.1	116.5	107.9	100
△	64	0038 7288	△ 8	1009 9600	400.5	387.8	325.7	100
	274	9610 2991	△ 6	0165 6820	51.1	53.3	57.2	100
	9917	7766 3335		97 7885 9384	111.7	110.7	106.0	100
△	1764	7500 6361	△ 198	8107 8470	256.1	244.8	201.5	100
	8153	0265 6974	△ 101	0221 9086	80.5	81.7	85.4	100
	1266	3872 3531		7 3143 3951	125.0	124.4	115.0	100
△	311	5712 9764	△ 30	1803 9425	320.3	310.7	274.4	100
	954	8159 3767	△ 22	8660 5474	61.2	63.6	62.9	100
		7056 4313		179 8500	111.6	109.1	107.5	100
	△	4650 1291	△	298 3583	116.5	110.1	133.7	100
		2406 3022	△	118 5083	102.0	107.0	56.7	100
	2	5139 4942	△	1022 0700	57.0	61.1	84.3	100
△	2	0944 4590		866 7904	50.4	54.5	80.8	100
		4195 0352	△	155 2796	90.1	93.8	101.6	100
	274	6322 6549		17 6997 0760	29.0	22.6	79.2	100
	105	5388 7710	△ 3	9371 3249	54.9	58.6	71.5	100
		2785 0005	△	48 4936	0.5	2.2	9.8	100
	105	0952 7702	△ 3	8124 9942	54.9	58.5	71.0	100
		1651 0003		0	100.0	100.0	100.0	100
		—	△	1176 7999	—	—	—	—
		—	△	21 0372	—	—	—	—
	4	2540 3000	△	1624 2000	38.5	42.3	59.0	100
	1	5804 4000	△	1179 7000	14.5	21.9	46.0	100
		—		—	—	—	—	—
	1	5804 4000	△	1179 7000	14.5	21.9	45.9	100
	1	3518 4000	△	444 5000	6.4	9.7	34.3	100
		—		—	—	—	—	—
	1	3518 4000	△	444 5000	6.4	9.7	34.1	100
	1	3217 5000		0	100.0	100.0	100.0	100
		—	△	51 0000	—	—	—	—
		—		51 0000	—	—	—	—
		—		0	—	—	—	—

科 目		令和元年度 (A)			平成30年度 (B)			平成26年度		
資 産	2 流 動 資 産	億	万	円	億	万	円	億	万	円
	(1) 現 金 預 金	127	7465	2787	169	6435	9726	127	9644	3840
	(2) 未 収 金	80	6806	4247	126	3920	1104	85	7054	7195
	貸 倒 引 当 金	24	4245	9128	24	1118	3349	29	6108	3381
	年 度 末 残 高	△ 1	3275	1012	△ 1	4593	9853	△ 2	0371	1255
	(3) 有 価 証 券	23	0970	8116	22	6524	3496	27	5737	2126
	(4) 前 払 金		600	0000		600	0000		615	0000
	(5) そ の 他 流 動 資 産	21	6144	5424	20	5391	5126	14	6237	4519
資 産 合 計		2	2943	5000			—			—
資 産 合 計		8076	6480	7251	8235	2394	5335	8653	2734	8614

科 目		令和元年度 (A)			平成30年度 (B)			平成26年度		
負 債	3 固 定 負 債	億	万	円	億	万	円	億	万	円
	(1) 企 業 債	3640	5764	1517	3809	8503	5719	4423	2018	9379
	ア 建設改良費等の財源に 充てるための企業債	3640	3681	7517	3809	5726	8719	4422	7266	8379
	イ 資本費平準化債	3638	3899	7517	3797	0360	7719	4403	6512	4379
	ウ 償還積立金			—			—			—
	エ その他の企業債			—	12	0066	1000	19	0754	4000
	(2) 長 期 借 入 金	1	9782	0000		5300	0000			—
	ア 水洗便所改造資金	2082	4000		2776	7000		4752	1000	
	イ 貸付借入金	1670	2000		2288	8000		4212	2000	
	ウ し尿浄化槽廃止 資金貸付借入金	412	2000		487	9000		539	9000	
	4 流 動 負 債	529	9628	4322	544	4318	1027	530	6428	0030
	(1) 企 業 債	450	4244	1514	425	5609	0532	436	1260	0251
	ア 建設改良費等の財源に 充てるための企業債	436	4827	7514	425	5609	0532	436	1260	0251
	イ 償還積立金	13	7218	4000			—			—
	ウ その他の企業債		2198	0000			—			—
	(2) 未 払 金	69	2894	5143	108	3747	3845	81	4590	1132
	(3) 前 受 金		491	1031		335	4789	1	8254	9385
	(4) 引 当 金	1	7996	6000	1	7679	3000	1	4897	2000
	ア 賞与引当金	1	7996	6000	1	7679	3000	1	4897	2000
	(5) そ の 他 流 動 負 債	8	4002	0634	8	6946	8861	9	7425	7262
債	5 繰 延 収 益	2458	9048	7931	2499	1379	3413	2666	2105	4170
	(1) 長 期 前 受 金	2458	9048	7931	2499	1379	3413	2666	2105	4170
	ア 受贈財産評価額	807	3925	0979	802	8001	9691	779	6380	1031
	収益化累計額	△ 407	9956	4433	△ 395	6364	1936	△ 343	5276	4175
	年 度 末 残 高	399	3968	6546	407	1637	7755	436	1103	6856

平成21年度	(A) - (B)	指 数			
		令和元年度	平成30年度	平成26年度	平成21年度
兆 億 万 円	億 万 円				
102 9196 2733	△ 41 8970 6939	124. 1	164. 8	124. 3	100
56 8770 5284	△ 45 7113 6857	141. 9	222. 2	150. 7	100
28 6180 4288	3127 5779	85. 3	84. 3	103. 5	100
—	1318 8841	—	—	—	—
28 6180 4288	4446 4620	80. 7	79. 2	96. 4	100
615 0000	0	97. 6	97. 6	100. 0	100
17 3630 3161	1 0753 0298	124. 5	118. 3	84. 2	100
—	2 2943 5000	—	—	—	—
1 0384 3619 9609	△ 158 5913 8084	77. 8	79. 3	83. 3	100

平成21年度	(A) - (B)	指 数			
		令和元年度	平成30年度	平成26年度	平成21年度
億 万 円	億 万 円				
537 2312 1000	△ 169 2739 4202	677. 7	709. 2	823. 3	100
536 9627 8000	△ 169 2045 1202	678. 0	709. 5	823. 7	100
—	△ 158 6461 0202	—	—	—	—
536 9627 8000	—	—	—	—	100
—	△ 12 0066 1000	—	—	—	—
—	1 4482 0000	—	—	—	—
2684 3000	△ 694 3000	77. 6	103. 4	177. 0	100
2177 0000	△ 618 6000	76. 7	105. 1	193. 5	100
507 3000	△ 75 7000	81. 3	96. 2	106. 4	100
100 4151 6428	△ 14 4689 6705	527. 8	542. 2	528. 4	100
—	24 8635 0982	—	—	—	—
—	10 9218 6982	—	—	—	—
—	13 7218 4000	—	—	—	—
—	2198 0000	—	—	—	—
82 8153 1496	△ 39 0852 8702	83. 7	130. 9	98. 4	100
—	155 6242	—	—	—	—
—	317 3000	—	—	—	—
—	317 3000	—	—	—	—
17 5998 4932	△ 2944 8227	47. 7	49. 4	55. 4	100
—	△ 40 2330 5482	—	—	—	—
—	△ 40 2330 5482	—	—	—	—
—	4 5923 1288	—	—	—	—
—	△ 12 3592 2497	—	—	—	—
—	△ 7 7669 1209	—	—	—	—

科 目		令和元年度 (A)			平成30年度 (B)			平成26年度		
負債	イ 国庫補助金	3142	9550	6867	3105	9579	4808	2980	1223	1590
	収益化累計額	△ 1465	0275	7685	△ 1407	1730	7648	△ 1188	4961	2731
	年度末残高	1677	9274	9182	1698	7848	7160	1791	6261	8859
	ウ 県補助金	79	1361	8420	79	1593	7055	79	3140	9013
	収益化累計額	△ 25	4757	9826	△ 23	5119	9149	△ 15	3341	3827
	年度末残高	53	6603	8594	55	6473	7906	63	9799	5186
	エ 受益者負担金	102	5203	0355	102	6347	1683	102	9879	6104
	収益化累計額	△ 50	2528	8291	△ 48	4379	8784	△ 41	2902	3698
	年度末残高	52	2674	2064	54	1967	2899	61	6977	2406
	オ 受益者分担金	12	9833	5236	12	5275	1205	9	5667	9209
	収益化累計額	△ 2	2192	7138	△ 1	9371	2547	△ 1	0589	3482
	年度末残高	10	7640	8098	10	5903	8658	8	5078	5727
	カ 工事負担金	467	8614	9580	467	4458	4174	464	9157	6291
	収益化累計額	△ 204	3656	7754	△ 196	1313	2732	△ 162	2596	3919
	年度末残高	263	4958	1826	271	3145	1442	302	6561	2372
資本	キ その他長期前受金	2	5034	2914	2	5066	2133	2	5151	6912
	収益化累計額	△ 1	1106	1293	△ 1	0663	4540	△	8828	4148
	年度末残高	1	3928	1621	1	4402	7593	1	6323	2764
	負債合計	6629	4441	3770	6853	4201	0159	7620	0552	3579
	6 資本金	1032	9787	6211	971	4663	5651	671	3635	4591
	(1) 自己資本金	1032	9787	6211	971	4663	5651	671	3635	4591
	(2) 借入資本金			—			—			—
	ア 企業債			—			—			—
	7 剰余金	414	2251	7270	410	3529	9525	361	8547	0444
	(1) 資本剰余金	368	2630	4928	364	5422	5518	338	7046	9876
	ア 受贈財産評価額	92	4014	3315	92	4859	2625	83	0990	8052
	イ 国庫補助金	214	3296	6611	214	3296	6611	214	0647	3511
	ウ 県補助金	2	2310	0524	2	2310	0524	2	2310	0524
	エ 受益者負担金	2	0267	0890	2	0267	0890	2	0134	0186
	オ 受益者分担金		319	9766		319	9766		319	9766
	カ 工事負担金	54	6000	8502	51	1394	8458	37	0542	5293
	キ その他資本剰余金	2	6421	5320	2	2974	6644		2102	2544
	(2) 利益剰余金	45	9621	2342	45	8107	4007	23	1500	0568
	ア 減債積立金	13	7890	2117	18	4337	2883	9	8889	5488
	イ 当年度未処分利益剰余金(△欠損金)	32	1731	0225	27	3770	1124	13	2610	5080
	資本合計	1447	2039	3481	1381	8193	5176	1033	2182	5035
負債・資本合計		8076	6480	7251	8235	2394	5335	8653	2734	8614

(注) 平成26年度から、改定後の会計基準が適用されている。

平成21年度				(A) － (B)			指 数			
							令和元年度	平成30年度	平成26年度	平成21年度
兆	億	万	円	億 万 円						
			—	36	9971	2059	—	—	—	—
			—	△ 57	8545	0037	—	—	—	—
			—	△ 20	8573	7978	—	—	—	—
			—	△	231	8635	—	—	—	—
			—	△ 1	9638	0677	—	—	—	—
			—	△ 1	9869	9312	—	—	—	—
			—	△	1144	1328	—	—	—	—
			—	△ 1	8148	9507	—	—	—	—
			—	△ 1	9293	0835	—	—	—	—
			—		4558	4031	—	—	—	—
			—	△	2821	4591	—	—	—	—
			—		1736	9440	—	—	—	—
			—		4156	5406	—	—	—	—
			—	△ 8	2343	5022	—	—	—	—
			—	△ 7	8186	9616	—	—	—	—
			—	△	31	9219	—	—	—	—
			—	△	442	6753	—	—	—	—
			—	△	474	5972	—	—	—	—
	637	6463	7428	△ 223	9759	6389	1, 039. 7	1, 074. 8	1, 195. 0	100
	5848	2932	6841	61	5124	0560	17. 7	16. 6	11. 5	100
	988	9123	1069	61	5124	0560	104. 5	98. 2	67. 9	100
	4859	3809	5772			—	—	—	—	100
	4859	3809	5772			—	—	—	—	100
	3898	4223	5340	3	8721	7745	10. 6	10. 5	9. 3	100
	3898	4223	5340	3	7207	9410	9. 4	9. 4	8. 7	100
	840	9071	3923	△	844	9310	11. 0	11. 0	9. 9	100
	2647	6303	2598			0	8. 1	8. 1	8. 1	100
	81	5504	4293			0	2. 7	2. 7	2. 7	100
	103	2090	6768			0	2. 0	2. 0	2. 0	100
	5	9664	9436			0	0. 5	0. 5	0. 5	100
	216	4452	8647	3	4606	0044	25. 2	23. 6	17. 1	100
	2	7135	9675		3446	8676	97. 4	84. 7	7. 7	100
			—		1513	8335	—	—	—	—
			—	△ 4	6447	0766	—	—	—	—
			—	4	7960	9101	—	—	—	—
	9746	7156	2181	65	3845	8305	14. 8	14. 2	10. 6	100
1	0384	3619	9609	△ 158	5913	8084	77. 8	79. 3	83. 3	100

経 営 分 析 比 率

区 分	令和元年度 (A)	平成30年度 (B)	平成29年度	平成28年度
1 収益性に関する項目				
営業収支率 $\left(\frac{\text{営業収益}}{\text{営業費用}} \times 100 \right)$	94.9%	96.3%	99.9%	100.6%
経常収支率 $\left(\frac{\text{経常収益}}{\text{経常費用}} \times 100 \right)$	103.4%	103.1%	104.0%	103.1%
総収支率 $\left(\frac{\text{総収益}}{\text{総費用}} \times 100 \right)$	103.2%	103.2%	104.2%	103.1%
自己資本率 $\left(\frac{\text{営業収益}}{\text{自己資本}} \right)$	0.088回	0.090回	0.092回	0.094回
総資本回転率 $\left(\frac{\text{営業収益}}{\text{総資本}} \right)$	0.042回	0.042回	0.042回	0.042回
固定資産回転率 $\left(\frac{\text{営業収益}}{\text{固定資産}} \right)$	0.043回	0.043回	0.043回	0.042回
未収金回転率 $\left(\frac{\text{営業収益}}{\text{未収金}} \right)$	14.039回	14.205回	14.357回	14.247回
総資本利益率 $\left(\frac{\text{当年度純利益} (\Delta \text{純損失})}{\text{総資本}} \times 100 \right)$	0.2%	0.2%	0.2%	0.2%
営業利益対営業収益比率 $\left(\frac{\text{営業利益} (\Delta \text{営業損失})}{\text{営業収益}} \times 100 \right)$	△5.3%	△3.8%	△0.1%	0.6%
2 安全性に関する項目				
自己資本率 $\left(\frac{\text{自己資本}}{\text{総資本}} \times 100 \right)$	48.4%	47.1%	46.0%	44.9%
固定資産比率 $\left(\frac{\text{固定資産}}{\text{総資本}} \times 100 \right)$	98.4%	97.9%	98.2%	98.4%
固定長期適合率 $\left(\frac{\text{固定資産}}{\text{長期資本}} \times 100 \right)$	105.3%	104.9%	104.7%	104.9%
固定比率 $\left(\frac{\text{固定資産}}{\text{自己資本}} \times 100 \right)$	203.5%	207.8%	213.3%	219.1%
負債比率 $\left(\frac{\text{負債}}{\text{自己資本}} \times 100 \right)$	169.7%	176.6%	183.6%	191.1%
固定負債比率 $\left(\frac{\text{固定負債}}{\text{総資本}} \times 100 \right)$	45.1%	46.3%	47.7%	48.9%

年 度 比 較 表

平成27年度	(A)－(B)	備 考
101.5%	△ 1.4	営業活動に要する費用が、営業活動から生じる収益でどの程度賄われているかを示す指標である。この比率は高い方が良くとされている。
102.5%	0.3	通常の事業活動に要する費用が、通常の事業活動から生じる収益でどの程度賄われているかを示す指標である。この比率は高い方が良いとされている。
102.0%	0.0	事業活動に要する費用が、事業活動から生じる収益でどの程度賄われているかを示す指標である。企業が純利益をあげるためには総収益が総費用を上回る必要がある。
0.096回	△ 0.002回	自己資本の利用度を示すものである。比率が高いほど自己資本の利用度が高いことを表す。
0.042回	0.000回	総資本に対しどれだけの営業収益が得られたかを示すものである。比率が高いほど総資本が効率的に使われていることを表す。
0.042回	0.000回	固定資産がどの程度営業活動に利用されたかを示すもので、固定資産投資の適否をみるために用いる。比率が高いほど固定資産投資が効率的であることを表す。
13.053回	△ 0.166回	未収金が現金預金に変わる速度を示すものである。比率が高いほどその速度が速いことを表す。
0.1%	0.0	総資本とそれによってもたらされた利益とを対比した比率であり、企業の収益性を示すものである。比率が高いほど収益性が高いことを表す。
1.5%	△ 1.5	営業活動から生じる収益のうち、利益となるものの割合を示す指標である。比率が高いほど収益性が高いことを表す。
43.8%	1.3	総資本に対する自己資本の比率である。高いほど企業経営が健全であることを表す。
98.5%	0.5	総資産に占める固定資産の割合を示すものである。高いほど資本が固定化の傾向にあることを表す。
105.3%	0.4	固定資産が自己資本と固定負債の合計額（長期資本）でどの程度賄われているかを示す。100%以下が望ましいとされている。
224.7%	△ 4.3	自己資本に対する固定資産の比率である。100%以下が望ましいとされている。
198.4%	△ 6.9	自己資本に対する負債の比率であり、低いほど健全であるといえる。自己資本が外部資本を担保するためには、この比率が100%以下であることが望まれる。
49.7%	△ 1.2	総資本の中に占める固定負債の比率である。低いほど企業経営は健全であるといえる。

区 分	令和元年度 (A)	平成30年度 (B)	平成29年度	平成28年度
3 流動性に関する項目				
流 動 比 率 $\left(\frac{\text{流 動 資 産}}{\text{流 動 負 債}} \times 100\right)$	24.1%	31.2%	29.1%	25.6%
当 座 比 率 $\left(\frac{\text{現 金 預 金} + \text{未 収 金}}{\text{流 動 負 債}} \times 100\right)$	19.8%	27.6%	26.0%	23.2%
流 動 資 産 回 転 率 $\left(\frac{\text{営 業 収 益}}{\text{流 動 資 産}}\right)$	2.291回	2.159回	2.464回	2.676回
現 金 預 金 比 率 $\left(\frac{\text{現 金 預 金}}{\text{流 動 負 債}} \times 100\right)$	15.2%	23.2%	21.2%	18.5%
4 資産に関する項目				
企 業 債 償 還 元 金 対 減 価 償 却 費 比 率 $\left(\frac{\text{企 業 債 償 還 元 金}}{\text{減 価 償 却 費}} \times 100\right)$	162.6%	160.5%	165.4%	179.0%
当 年 度 減 価 償 却 率 $\left(\frac{\text{減 価 償 却 費}}{\text{償 却 資 産} + \text{減 価 償 却 費}} \times 100\right)$	3.4%	3.3%	3.3%	3.2%
5 収益に対する割合に関する項目				
人 件 費 対 営 業 収 益 $\left(\frac{\text{人 件 費}}{\text{営 業 収 益}} \times 100\right)$	7.4%	7.2%	7.1%	7.3%
企 業 債 利 息 対 営 業 収 益 $\left(\frac{\text{企 業 債 利 息}}{\text{営 業 収 益}} \times 100\right)$	18.7%	20.4%	22.2%	23.9%
企 業 債 償 還 元 金 対 営 業 収 益 $\left(\frac{\text{企 業 債 償 還 元 金}}{\text{営 業 収 益}} \times 100\right)$	124.9%	119.6%	120.2%	127.9%
企 業 債 元 利 償 還 金 対 営 業 収 益 $\left(\frac{\text{企 業 債 元 利 償 還 金}}{\text{営 業 収 益}} \times 100\right)$	143.6%	140.0%	142.4%	151.8%

平成27年度	(A)－(B)	備	考
23.7%	△ 7.1	流動負債に対する流動資産の比率であり、短期債務に対する支払能力を示すものである。100%以上であることが必要である。	*流動資産回転率の算定に係る流動資産は、平均値（平均値＝（期首＋期末）×1／2）である。
22.6%	△ 7.8	流動負債に対する当座資産の比率であり、流動負債に対する支払能力を示すものである。100%以上が理想値とされている。	
2.778回	0.132回	流動資産の営業活動における回転度を示す。数値が高いほど流動資産が有効に稼働していることを表す。	
18.0%	△ 8.0	流動負債に対する現金預金の比率であり、企業の当座の支払能力をみるために流動比率や当座比率とともに用いられる。1か月分程度の必要額として20%以上であることが望まれる。	
173.7%	2.1	企業債償還元金が減価償却費の何%に当たるかをみる比率である。小さいほど良いとされている。	
3.2%	0.1	固定資産の何%が償却されているかを示すものである。	
7.3%	0.2	人件費が営業収益の何%に当たるかをみる比率である。	*人件費は、損益勘定所属職員（嘱託を含む。）に係るものである。
25.5%	△ 1.7	企業債利息が営業収益の何%に当たるかをみる比率である。小さいほど良いとされている。	
121.6%	5.3	企業債償還元金が営業収益の何%に当たるかをみる比率である。小さいほど良いとされている。	
147.1%	3.6	企業債元利償還金が営業収益の何%に当たるかをみる比率である。小さいほど良いとされている。	

第1章 策定にあたって

1 策定の趣旨

広島市では、市民生活に欠かせない重要なライフラインである下水道について、これまで計画区域を拡大して整備を行ってきた結果、平成 26 年度末現在の汚水処理人口普及率は 95.1%となっています。

一方、これまで整備してきた施設の老朽化が進行しており、将来にわたって下水道のサービスを安定的に提供していくためには、施設の老朽化対策に積極的に取り組む必要があります。

また、近年の局所的な豪雨による浸水被害への対応や、循環型社会の形成、低炭素社会の構築への貢献など、下水道事業に求められる役割も変化し、多様化しています。

こうした状況の中、本市では、4 年ごとに財政収支計画を策定し、経営の効率化を図り、的確・適正な下水道事業の運営に取り組んできました。

このたび、現行の財政収支計画の計画期間が平成 27 年度で終了することから、下水道事業に求められる役割を果たし、次世代へ良好な生活環境や都市基盤施設を引き継ぐとともに、下水道事業が抱える課題の解決に必要な取組を体系的に確実に進めるため、新たな財政収支計画として「広島市下水道事業中期経営プラン（平成 28 年度～平成 31 年度）」（以下「プラン」といいます。）を策定しました。

このプランでは、将来にわたって安定的に事業を継続していくための中長期的な視点から、現状と課題を整理した上で、平成 28 年度からの 4 か年に取り組む主な施策である事業計画と、その裏付けとなる経営計画についてとりまとめています。

このプランを着実に実施することにより、市民の皆様の安全で快適な生活を支えるための取組を着実に進めていくとともに、より一層の経営の効率化に努め、計画的・安定的な下水道事業の運営に取り組んでまいります。

2 計画期間

平成 28 年度から平成 31 年度までの 4 年間とします。

3 計画の位置づけ

本市では、「広島市基本構想」及び「第 5 次広島市基本計画」を上位計画とした下水道に関する部門計画として、下水道が目指すべき基本的な方向性や今後の取組を整理した「ひろしま下水道ビジョン」を策定しています。

「中期経営プラン」は、このビジョンに掲げた施策を計画的かつ確実に達成するための行動計画（アクションプログラム）として位置付けています。

第3章 経営計画

2 財政収支計画

(1) 収益的収支

使用料収入の増加が見込まれない中、既存の施設の老朽化や新たな施設の建設に伴い、維持管理費や減価償却費が増加傾向にあるものの、企業債残高の削減に伴う企業債利息の減少や経費削減への取組により毎年度純利益を確保できる見込みです。

(単位：億円)

項 目	28年度	29年度	30年度	31年度	計
収益的収入 (A)	457	460	458	456	1,830
下水道使用料	203	202	200	199	804
一般会計負担金	159	163	162	161	644
その他	94	96	96	96	382
収益的支出 (B)	452	454	452	450	1,808
維持管理費	101	102	102	101	405
減価償却費	253	259	261	262	1,035
企業債利息等	93	89	85	82	348
その他	5	5	4	5	20
純利益 (A) - (B)	5	6	6	5	22

注1 金額は、消費税及び地方消費税を除いた額です。

2 1億円未満の端数を四捨五入しているため、内訳と合計（差引）が一致しない場合があります。

3 下水道使用料の金額は、減免相当額を含んだ額です。減免相当額については、一般会計から補助金を受け、収益的収入として計上されるため、この表では下水道使用料に含めています。

(2) 資本的収支

現行の財政収支計画とほぼ同額の建設改良費を予定していますが、過去集中的に施設整備を進めるために借り入れた企業債の償還が進むことにより、企業債残高は減少します。

(単位：億円)

項 目	28年度	29年度	30年度	31年度	計
資本的収入 (A)	429	400	394	421	1,644
国庫補助金	48	49	51	58	206
企業債	297	275	269	292	1,132
一般会計出資金	78	70	67	64	279
その他	6	7	7	7	27
資本的支出 (B)	604	583	576	606	2,368
建設改良費	161	154	161	176	651
償還金	442	428	414	430	1,714
その他	1	1	1	1	3
差引 (A) - (B)	△ 175	△ 182	△ 182	△ 185	△ 724
補填財源	175	182	182	185	724
損益勘定留保資金等	171	175	177	179	702
減債積立金	4	7	5	6	22
企業債残高	4,599	4,447	4,303	4,167	

注1 金額は、消費税及び地方消費税を含んだ額です。

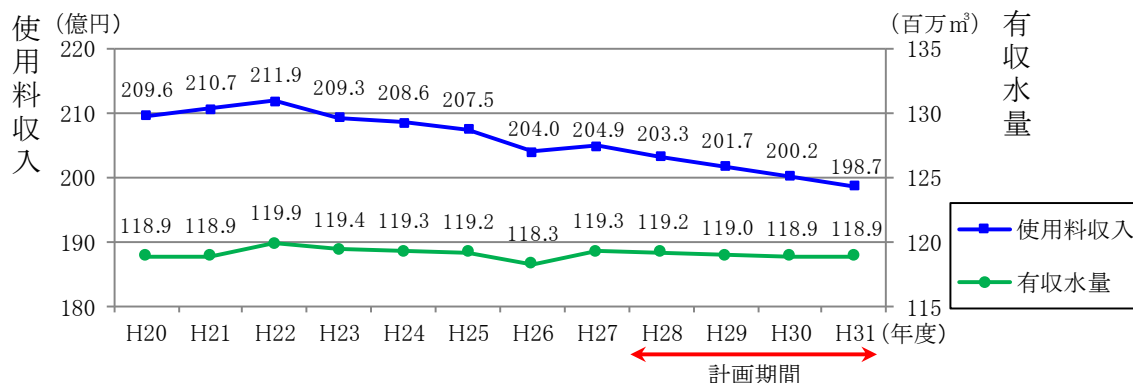
2 1億円未満の端数を四捨五入しているため、内訳と合計（差引）が一致しない場合があります。

3 補填財源とは、現金支出を伴わない減価償却費など、企業内の留保資金をいいます。

[財政収支計画策定にあたっての主要項目の現状と見通し]

① 有収水量及び使用料収入

広島市の使用料収入は、市民のライフスタイルの変化や節水機器の普及、企業等の経費節減により、平成 23 年度以降減少傾向にあり、この傾向は、今後も続くと思込まれます。

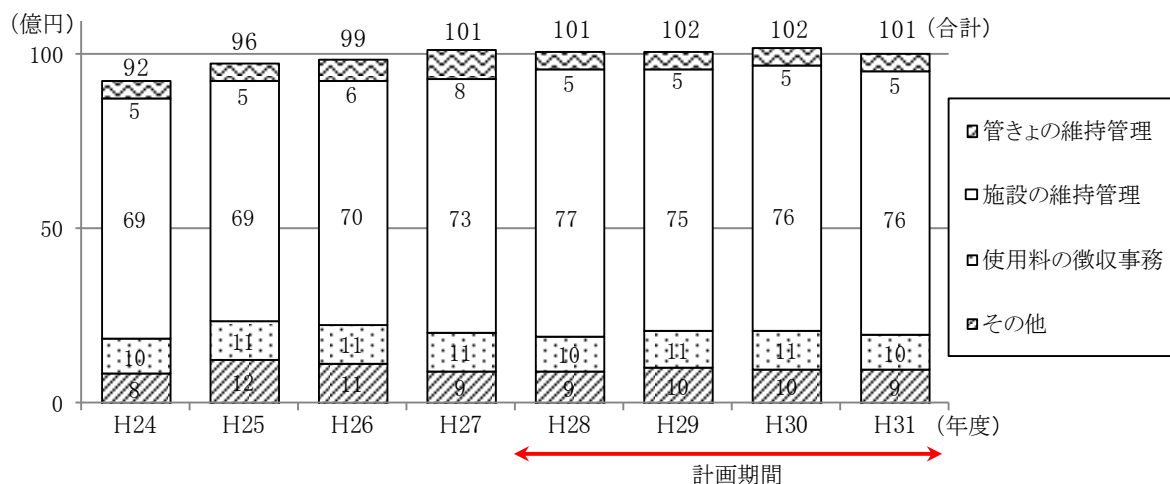


注 1 金額は消費税及び地方消費税相当額を除いた額で、減免相当額を含みます。

2 平成20年度から平成26年度は決算額、平成27年度は決算見込額です。

② 維持管理費

維持管理費は、施設の増加や、老朽化した施設の補修費の増加により、増加傾向にありますが、経営の効率化に努めることにより、今後 4 年間は、ほぼ横這いで推移する見込みです。



注 1 金額は消費税及び地方消費税相当額を除いた額です。

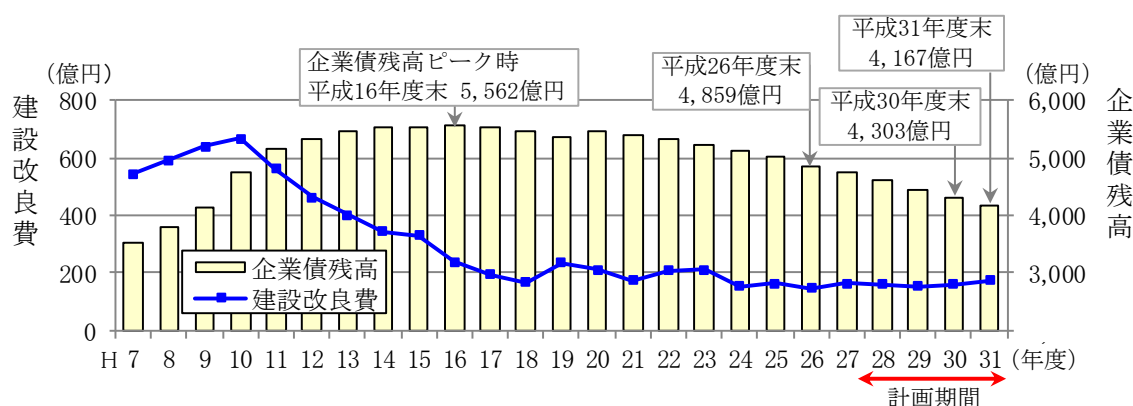
2 1億円未満の端数を四捨五入しているため、内訳と合計が一致しない場合があります。

3 平成24年度から平成26年度は決算額、平成27年度は決算見込額です。

③ 建設改良費と企業債残高

企業債を活用して積極的な整備を行ってきた結果、平成 16 年度末には、企業債残高が 5,562 億円に達しましたが、その後、建設改良費の抑制に努め、平成 26 年度末現在では、4,859 億円に縮減しています。

このプランでは、老朽化対策と浸水対策を重点的に推進し、現行の財政収支計画とほぼ同額の事業費を予定していますが、企業債残高は、過去に発行した企業債の償還が進むことにより、現行の財政収支計画での見込（平成 30 年度末 4,303 億円）以上に減少していき、平成 31 年度末には 4,167 億円となる見込みです。

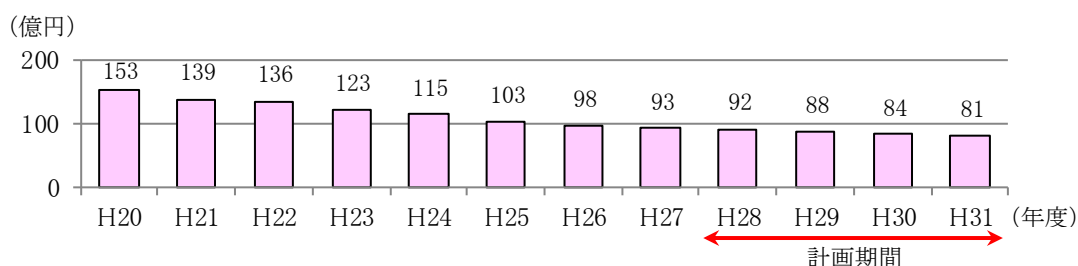


注 1 金額は消費税及び地方消費税相当額を含んだ額です。

2 平成7年度から平成26年度は決算額、平成27年度は決算見込額です。

④ 企業債利息

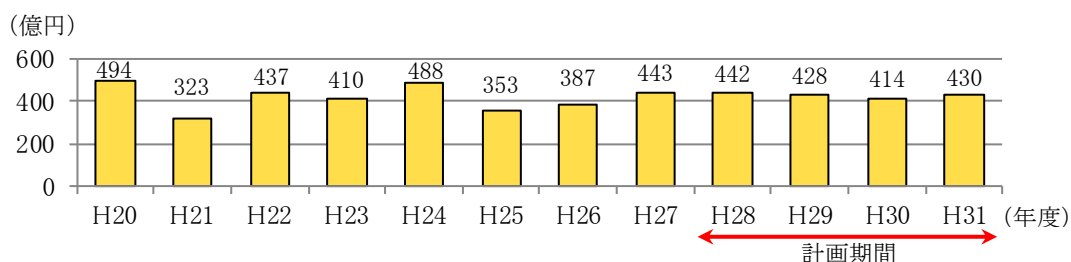
企業債利息は、企業債の償還が進むことにより減少しており、今後も少しずつ減少していく見込みです。



注 平成20年度から平成26年度は決算額、平成27年度は決算見込額です。

⑤ 元金償還金

③のとおり、企業債残高は減少していますが、平成 10 年度をピークとして発行してきた多額の企業債の償還が続くため、元金の償還額は、今後も横這いで推移する見込みです。



注 平成20年度から平成26年度は決算額、平成27年度は決算見込額です。

第1章 策定にあたって

1 策定の趣旨

広島市では、市民生活に欠かせない重要なライフラインである下水道について、これまで順次計画区域を拡大して整備を行ってきた結果、2019（令和元）年度末現在の汚水処理人口普及率は96.8%となる見込みです。

一方、これまで整備してきた施設の老朽化が進行しており、将来にわたって下水道のサービスを安定的に提供していくためには、施設の老朽化対策に積極的に取り組む必要があります。

また、近年の局所的な豪雨による浸水被害への対応や、循環型社会の形成、低炭素社会の構築への貢献など、下水道事業に求められる役割も変化し、多様化しています。

こうした状況の中、本市では、生活環境の維持・改善や災害に強いまちづくりの推進等、下水道事業に求められる役割を果たすため、4年ごとに整備計画と経営計画を一体的に取りまとめた「広島市下水道事業中期経営プラン（以下「プラン」といいます。）」を策定し、適切な施設整備・維持管理及び経営の効率化に積極的に取り組んできました。

このたび、平成28年度～令和元年度のプランが終了することから、現状と課題を踏まえ、令和2年度からの4か年に取り組む新たなプランを策定しました。

2 計画期間

プランは、「広島市行政経営改革推進プラン」及びその部門計画である「財政運営方針」と同じ期間で取りまとめています。

プランの計画期間は令和2年度から令和5年度までの4年間です。

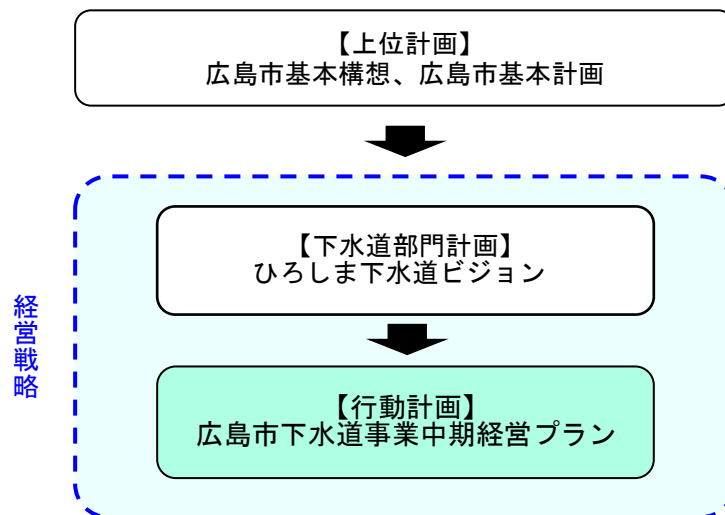
3

計画の位置づけ

本市では、「広島市基本構想」及び「広島市基本計画」を上位計画とした下水道に関する部門計画として、下水道が目指すべき基本的な方向性や今後の取組を整理した「ひろしま下水道ビジョン」を策定しています。

プランは、この「ひろしま下水道ビジョン」に掲げた施策を計画的かつ確実に達成するための行動計画（アクションプログラム）として、4年間の「財政運営方針」との整合を図って策定しています。

また、総務省は、将来にわたってサービスの提供を安定的に継続することが可能となるように、中長期的な経営の基本計画として「経営戦略」の策定を要請しており、本市では、「ひろしま下水道ビジョン」とプランを合わせて「経営戦略」として位置付けています。



第3章 経営計画

2 経営計画の内容

1 収益的収支

使用料収入の減少を見込む一方、整備計画に基づく新たな施設等の建設や既存の施設等の老朽化に伴う維持管理費増加の抑制を図ります。また、企業債の着実な償還により残高の減少に努めて企業債利息の減少を図り、引き続き毎年度純利益を確保します。

(単位：億円)

項 目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	計
収益的収入 (A)	440	439	436	434	1,748
下水道使用料	200	199	198	197	794
一般会計負担金	141	141	139	138	560
その他	99	99	98	99	394
収益的支出 (B)	425	423	419	417	1,683
維持管理費	98	99	100	100	397
減価償却費	263	265	264	265	1,057
企業債利息等	61	55	50	46	212
その他	2	4	4	6	17
純利益 (A)－(B)	15	16	17	17	65

注1 金額は、消費税及び地方消費税を除いた額です。

2 1億円未満の端数を四捨五入しているため、内訳と合計（差引）が一致しない場合があります。

2 資本的収支

整備計画に基づく事業の実施や、過去に借り入れた企業債の償還の財源として、国庫補助金、企業債等の収入を確保します。

収益的収支において生じる純利益は、全て減債積立金として企業債の償還の財源に充てることとしており、これにより一般会計から繰り入れる出資金を縮減するとともに、着実に企業債残高を減少させ、経営基盤の一層の強化を図ります。

(単位：億円)

項 目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	計
資本的収入 (A)	415	421	412	410	1,658
国庫補助金	54	54	56	54	217
企業債	304	322	317	322	1,265
一般会計出資金	51	38	33	29	151
その他	6	8	6	5	25
資本的支出 (B)	607	613	609	610	2,440
建設改良費	169	164	163	163	660
償還金	439	448	446	446	1,779
その他	0	0	0	0	2
差引 (A)－(B)	△ 193	△ 192	△ 197	△ 200	△ 782
補填財源	193	192	197	200	782
損益勘定留保資金等	179	181	182	184	726
減債積立金	14	11	15	16	56
企業債残高	4,017	3,890	3,762	3,637	

注1 金額は、消費税及び地方消費税を含んだ額です。

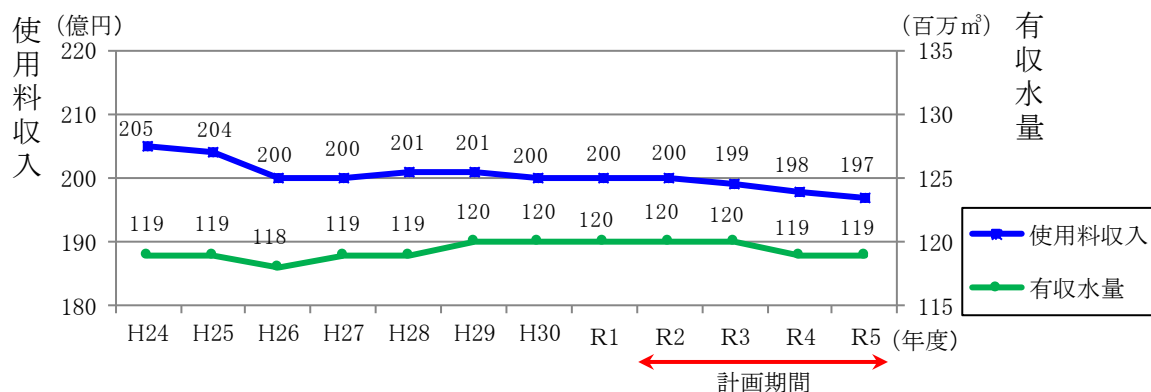
2 1億円未満の端数を四捨五入しているため、内訳と合計（差引）が一致しない場合があります。

3 補填財源とは、現金支出を伴わない減価償却費など、企業内の留保資金をいいます。

3 計画策定にあたっての主要項目ごとの現状と見通し

《使用料収入及び有収水量》

広島市の使用料収入は、市民のライフスタイルの変化や節水機器の普及、企業等の経費節減により徐々に減少する傾向にあり、この傾向は今後も続く見込まれます。

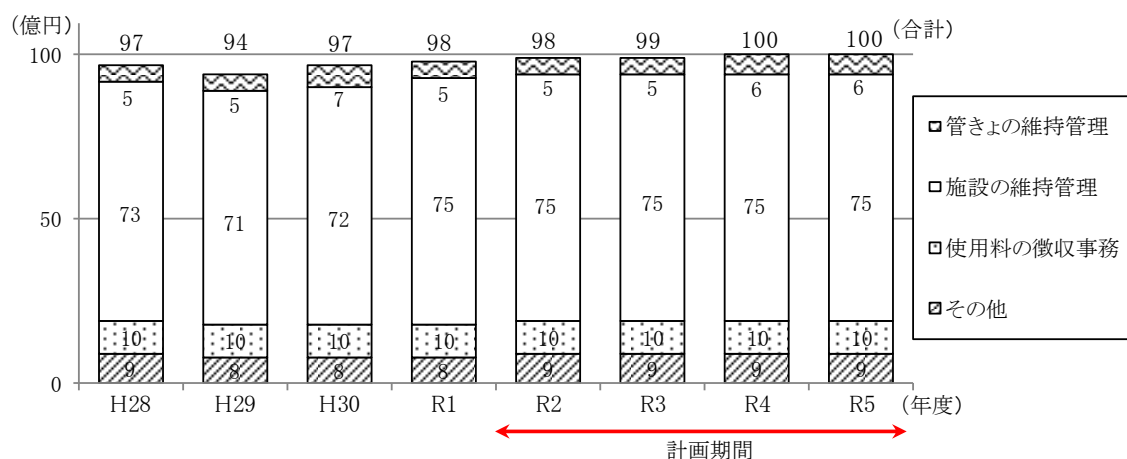


注 1 金額は消費税及び地方消費税相当額を除いた額です。

2 平成24年度から平成30年度は決算額、令和元年度は決算見込額です。

《維持管理費》

施設の増加や、老朽化した施設の補修費の増加により、維持管理費は増加傾向にあります。経営の効率化に努めることにより、今後4年間は、ほぼ横ばいで推移する見込みです。



注 1 金額は消費税及び地方消費税相当額を除いた額です。

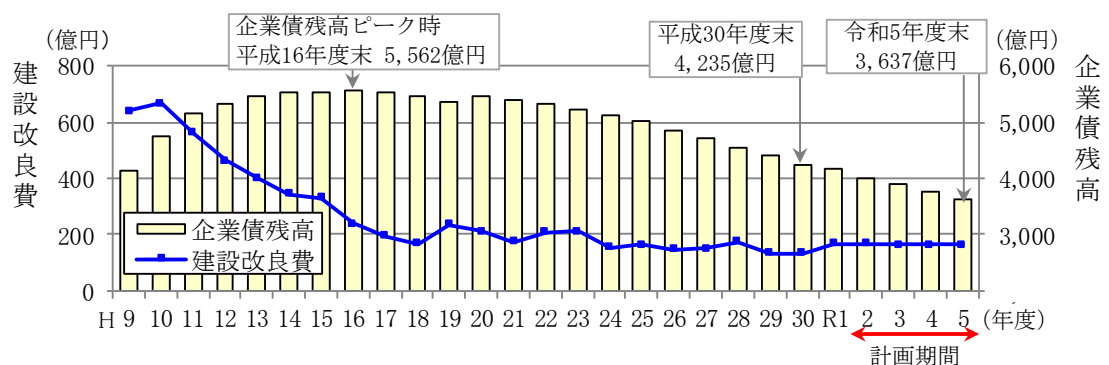
2 1億円未満の端数を四捨五入しているため、内訳と合計が一致しない場合があります。

3 平成28年度から平成30年度は決算額、令和元年度は決算見込額です。

《建設改良費と企業債残高》

積極的に下水道施設の整備を行ってきた結果、平成16年度末には、企業債残高が5,562億円に達しましたが、その後、建設改良費の抑制に努め、平成30年度末現在では、4,235億円に縮減しています。

本プランでは、老朽化対策と浸水対策を重点的に推進し、前プランとほぼ同額の建設事業費を予定していますが、企業債残高は、過去に発行した企業債の償還が進むことにより、令和5年度末には3,637億円となる見込みです。



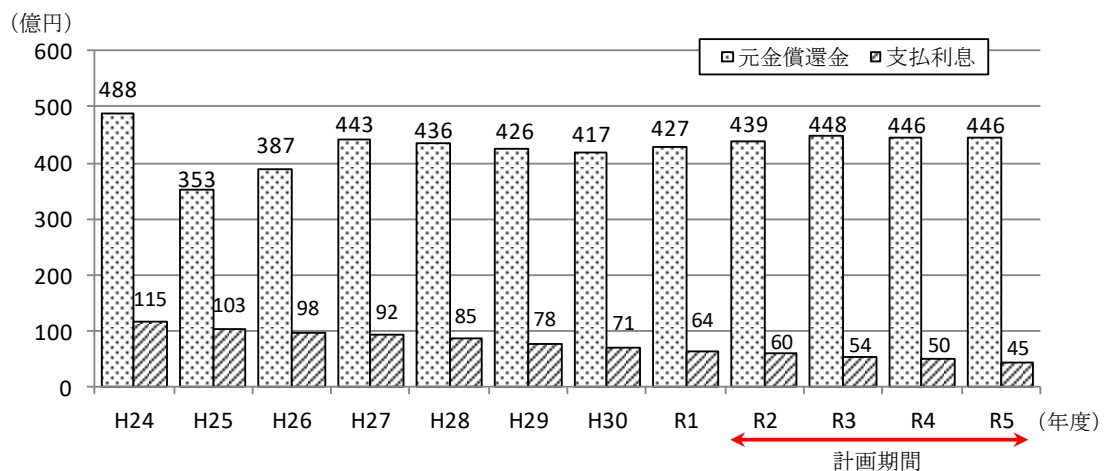
注1 金額は消費税及び地方消費税相当額を含んだ額です。

2 平成9年度から平成30年度は決算額、令和元年度は決算見込額です。

《企業債元金償還金と支払利息》

上記のとおり企業債残高は着実に減少する見込みですが、平成10年度をピークとして発行してきた多額の企業債の償還が続くため、元金の償還額は本プラン計画期間中も横ばいで推移する見込みです。

企業債利息の支払額は企業債残高の減少に伴い減少を続けており、本プラン計画期間中も減少していく見込みです。



注 平成24年度から平成30年度は決算額、令和元年度は決算見込額です。